

本単元の問い：

【重要概念】：「想起と忘却」・「境界」・「排除と包摂」

パフォーマンス課題：《評価基準についてはルーブリックを参照のこと》

以下の設問に答えなさい。

それぞれの資料をもとに、「あの時代に生きていたら、あなたならどうしますか」という問いに対して、あなた自身が、資料を読んだ人物の立場だった場合、あなたならどのように行動しますか。

【配布資料 参考文献一覧】

- ①：「いとこに同情して結婚し、渡満—吉林省水曲柳開拓団」（語り手 桜井 こう）『下伊那のなかの満洲 聞き書き報告集10』
- ②：中国残留者の帰国支援に生涯をかけて一大八浪泰阜村開拓団青少年義勇隊哈爾濱中央病院」（語り手中島 多鶴）『下伊那のなかの満洲 聞き書き報告集9』
- ③：「自決組と別れて脱出組へ—吉林省水曲柳開拓団」（語り手 竹内 和市）
- ④：「帰国を願いつづけて四五年—第八次新立屯上久堅村開拓団」（語り手 丹羽 千文）
- ⑤：「証言2 江訓練所 佐藤三吉さん（福島県）」、藤沼敏子、2021、『WWII 50人の奇跡の命』津成書店。
- ⑥：

◎事実に関する問い

①：資料の内容を話した人物がどのような人物かが分かる内容を記述しなさい。

◎概念的な問い

- ①：当時の時代状況を踏まえて、その人物なぜそのような行動（資料に書かれているような行動）をしたのか。その人物の置かれた状況を踏まえて説明しなさい。
- ②：また、その人物の証言が当時の状況を伝えてくれることで、当時のどのような側面
- ③：その資料の人物の視点からだけでは見えない事実もある。あなたが読んだ資料の人物の視点から抜け落ちている視点を指摘しなさい。

◎議論を喚起する問い

「あの時代に生きていたら、あなたならどうしますか」という問いに、あなた自身の考えを答えなさい

《歴史的思考力とは何か？》

- ①：史料批判（誰が/どの立場の人物が、どのような目的で、どのような内容を書いたか）
- ②：歴史的文脈の理解・解釈 ③：因果的な理由づけ ④：解釈を批判的にとらえる ⑤現代に適応
- ⑥：史資料をもとに歴史を叙述する ⑦：歴史を題材として自ら「問い」をたてる





表1 参加生徒へのアンケート質問項目および回答内容一覧

生徒アンケートの質問項目 一覧

- Q1：歴史の授業において歴史を学ぶことに興味・関心はありますか。  
 (※5件法で実施 5：大いに興味がある 4：少し興味がある 3：普通程度にあると思う 2：あまり無い 1：まったく無い)
- Q2：興味・関心があるとすれば、どのような点ですか。自分の興味・関心がある人物や出来事、時代があれば説明をしてください。(自由記述・箇条書きでも可)
- Q3：博物館で歴史について学ぶことに興味・関心はありますか。(※5件法で実施)
- Q4：いままで訪れて記憶に残っている博物館(「記念館」や「祈念館」なども含む)は、どのような博物館でしたか。説明できる範囲で構いません。(自由記述・箇条書き可)  
 (訪れた博物館が無い場合には「無し」と書いてください。)
- Q5：博物館に行ったことがない、博物館での学びに興味がない場合には、以下にその理由を書いてください。
- Q6：【事前学習を実施する前の段階で、この質問に回答してください。】満蒙開拓団について、現時点であなたが知っている内容・出来事・言葉について、知っていることを全て書き出してください。(自由記述・箇条書き可)
- Q7：【事前学習の後、博物館研修の前の段階で、この質問に回答してください。】満蒙開拓団について、現時点であなたが知っている内容・出来事・言葉について、知っていることを全て書き出してください。(自由記述・箇条書き可)
- Q8：満蒙開拓団について博物館を訪れてみて初めて知った内容・出来事・言葉について書き出してください。(自由記述・箇条書き可)
- Q9-1：満蒙開拓平和記念館を訪れた際の質問です。以下の各項目に答えてください。  
 9-1：満蒙開拓平和記念館の中において、どの展示が一番興味を持ちましたか。 展示名もしくは展示の内容：  
 Q9-2：なぜその展示が一番興味を持ちましたか。  
 Q9-3：この博物館では、なぜその展示が置かれていると思いますか。あなたが考えられる範囲で結構ですので、その理由について説明してください。
- Q10：この博物館の展示の中で、あなたが自分の子孫(自分の子供や甥っ子や姪っ子)、もしくは自分の後輩に伝えたいと思う内容は、どの展示内容になりますか。3つ挙げて説明してください。
- Q11：あなた自身が今回の一連の学習(事前学習から博物館訪問)を通じて、満蒙開拓団とはどのようなものであったと考えましたか。
- Q12：この満蒙開拓団に関わるさまざまな物事は、今の私たちの社会やあなた自身と、どのようにつながっていると考えますか。もしくはまったく関係ないと考えますか。あなた自身の考えを述べてください。(自由記述)
- Q13：本日、満蒙開拓平和記念館で見たものや学んだこと、また考えたことなどを他の人(保護者・友人など)に話したりしましたか。また差し支えなければ、どのような内容のことについて話をしたかを説明してください。

参加生徒のアンケート回答一覧

質問番号	生徒A 高校3年生 日本史探究選択	生徒B 高校3年生 日本史探究選択	生徒C 高校3年生 世界史探究選択	生徒D 高校3年生 日本史探究選択	生徒E 高校3年生 日本史探究選択	生徒F 高校2年生 世界史探究選択
Q1	3：普通程度にあると思う	5：大いに興味がある	4：少し興味がある	4：少し興味がある	4：少し興味がある	5：大いに興味がある
Q2	江戸	その時代の生活の実態とか近年さらに解明しつつある事件の事実を知りたい	宗教の分布、カンボジア(ポト政権)の歴史、地政学	坂本龍馬 戊辰戦争	平安時代	昔の人の生活や文化について興味がある
Q3	4：少し興味がある	4：少し興味がある	4：少し興味がある	4：少し興味がある	3：普通程度にあると思う	5：大いに興味がある
Q4	府中市郷土の森博物館 ひめゆり平和祈念資料館	・ひめゆり平和祈念資料館 ・国立科学博物館 ・京都の史料館等(地元なので)	無し	富岡製糸場	広島平和記念資料館 ひめゆり平和祈念資料館	・東京国立博物館 ・古代オリエント博物館 ・新選組のふるさと歴史観
Q5			歴史上の出来事に興味はあるが、インターネットや解説動画を参考にある程度は情報を得られるのでそれで満足してしまうことが多いため。			
Q6	満洲	詳しくは知らない	満洲国が日本軍により建国された際に、日本から送られた人材であること	未記入	なし	・農業をしに行った。 ・日本の生命線
Q7	・日本国内から満洲国への開拓移民 ・さまざまな人がさまざまな理由で満洲に行った(学校からの指示、貧困から自ら)	満洲に送り出された日本の農業移民だったということ	満洲に移住した人のうち、ソ連の侵攻から逃げられず、収容された中には、中国人に買われ残留孤児となって現地で育った人もいた。	・場所によって日本に帰れたかが異なる ・日本人が として受け入れた ・日本から見捨てられてしまった	・満洲に農業をおこなっていた人たちが移民として行った。 ・中国人は、土地を奪われた人もいた。	・危険な土地に住んでいた ・引き揚げる際にも大変な苦労があった ・全員が望んで行ったわけではなかった
Q8	・義勇軍 ・売春婦 ・引き上げが南部のコロナ島で行われた	・満蒙開拓団に編入する移民を多く送った村には国から補助金が出ていたということ ・国策であったため、国民は反対しにくかったが、義勇兵の保護者からの反対も非常に多く、逆に親や国のためという思いから自ら義勇兵に志願したり、親の目を盗んで行く子供も多かった。	満洲に移住した人は、日本に家などの財産を残さず満洲へ渡ったため、日本へ引き揚げられた後も、日本に居場所はなく、軽井沢などを開拓して住む場所を得たこと。 ・山本慈照さんが残留孤児・残留婦人の血縁のある親戚を見つける活動をしたこと。それまで日本の世論にその話題が上がらなかったこと。	満洲は聞いたことがあったけど、何があったのか、どこなのかは知らなかったので地図などあって理解できた	・満蒙開拓青少年義勇軍、学校単位で満洲に行った ・当時は売買婚だったということ	・満洲に行った人の多くは農業をしていただけではなく、都市部で仕事をしていた ・有名な漫画家などを起用して宣伝していた ・土地は公正な取引にもとづいて明け渡されたものばかりではなかった。
Q9-1	新天地満洲にあった地図	・開拓団の逃避行 ・収容上生活	望郷 山本慈照と残留孤児 残留孤児の帰国を支援した山本慈照さんが、どのような活動をしたのか 残留孤児が書いた山本さん宛の手紙	当時の証言者が展示されていたところ	満蒙開拓青少年義勇軍	満洲に行った人の体験談

Q9-2	農業移民が北に集中していたり、義勇軍がさらに国境ぎりぎりに配置されているのが見てわかり興味を持った。	自国に住むより快適に暮らせると思って、満州に移ってきたのに、日本で住んでいた頃には考えられなかったであろう敵国からの侵略や疫病の伝染により、最終的に日本よりも過酷な環境で家族とはぐれた状態で死んでしまうという、とてつもない惨状がなかなか惨めに思ったから。	第二次世界大戦後、アメリカに傘下におかれた日本で、民間組織が中心となって残留孤児の帰国を支援したことを知って衝撃だったため。残留孤児が山本さん宛に手紙を書いたということは、日本に帰りがっていた、自分の家族の現状を知りたがっていた、ということだと考えられるので、当事者たちの気持ちを考えると、心が痛むし、つい50年ほど前の出来事なのにあまり知られていないから、忘れてはならないとも感じた。	映像だったため、どんな人が何をされたのか、リアルだった	自分たちと同じくらい、小さい子も満州に行ったということ。また、満州に行くことで土地をもらい、そこで親と住むという計画をたてていた人もいたということ。	個人が経験された事が生々しく感じる事が出来たから。
Q9-3	義勇軍の環境（国境付近に集められた）などを見て分かりやすくするため	この自治体が開拓団を出したということから、この地域がこの展示をすることで、このような惨状を生むということを自分たちの教訓として各地域に伝えるため。	戦争やその過程となる国策が、国民の人生にどれだけの傷を残すのか、世界に、後世に伝えるため	見学者によりリアルに伝えるため	大人だけでなく、若い人も満州に行き、亡くなった人もいたこと。また、満州に送り出してしまった側の人のことを伝えるためだと思う。	・広い視点で見ると満州におとずれ去っていくという一連の動きがよく分かるが、それだけではなく、一人一人がどのような体験をしたかというものは様々であるため。
Q10	・証言 ・残留孤児について ・敗戦からの逃避行	・満州が生まれた歴史 ・満州に取り残された人々の逃避行、収容所生活 ・中国残留孤児、残留夫人について	・望郷 山本慈昭と残留孤児 ・敗戦と逃避行 絶望の彷徨 ・序章 時代を知るタイムトンネル	・日本から誇りを持って行ったが、その後、日本に捨てられた ・日本人は孤児として生活した人もいる ・奥の方まで派遣された	・青少年義勇軍のこと ・中国の人に子供を預ける。婦人が結婚したこと。 ・引き揚げのこと	展示①序章 時代を知るタイムトンネル-満州とはどのような場所か曖昧な方が多いと思うから 展示⑦望郷 山本慈昭と残留孤児-残留孤児たちの苦悩と彼らを救おうとした方に心を打たれたから 展示③新天地満州 希望の大地-満州でのくらしに興味があったので
Q11	国が主導したのに満蒙開拓団においていたりするなど無責任なものだった	1930年代から1945年にかけて、日本政府によって進められた満州に日本を移住させることで、農村における過剰人口を解消しつつ、満州をその農民たちによって開発させようとした計画で、当時苦しい生活を強いられた農民たちが自分や家族のためにも少しでも良い生活が出来ることを望んで参加していったもの	日本が領土を拡大し、不景気から脱出するために政府や軍が勝手に動き、国民を騙した。満蒙開拓団は国に騙され、ソ連侵攻の際には見捨てられた戦争の被害者だと思う。	第二次世界大戦などで日本の国民は誇りを持って戦っていたことは知っていたけれど、誇りを持って満州へ行った人も、その後には生まれた子どもなどの壮絶な生活を知り、今、自分が生活できているのありがたいと思いました。	良いと思う点もあったが、それ以上に人々が大変な思いをしたことだと考える。	現代の視点から見れば杜撰な取り組みであったと思う。元々現地に住んでいた人々や移住していった人々は満足した結果を得られなかっただろう。満蒙開拓がとてもではないが利得のあるものだったとは思えない。
Q12	いまだに残留孤児などの問題が載っており、今を生きている人として理解しなければならぬと思う	今の日本や国際社会における移民問題への新たな視点を持つことが出来ると思う。もし自分たちが有事の際に、どのようにして生活していくことが最善策かという過剰な考えに対しても、このような実話からくみ取れるものもあると思う。	大いに関係あると思う。歴史上の出来事から学び、現在実際に起きているロシア・ウクライナ戦争やイスラエル・ガザ戦争などから目を逸らさず知らずにするべき。国際社会で起きる出来事に関して、私たち個人が出来ることは少ないし、声をあげたところで解決には近づかないだろうけど、戦争に発展してしまったら大きく被害を受けるのは国民だから、もし仮に自分がそのような状況に置かれたときに少しでもマシな選択が出来るように知っておくべきだと思う。	直接的関係は無いのかも知れないけれど、日本国民は日本の政府の事を嘘なのに信じていた結果、満州へ行き取り残されてしまった人も居ると思うので、現代の私達はスマホなどもあるので、誰かに頼まれるのではなく、自分で物事を判断していく事が必要だと思いました。	まったく関係ないわけではないと思う。こういう出来事があったからこそ、今の日本や世界がつくられているのだと思う。	現代では投げやりな制度はそこまで無いと思う。満蒙開拓団のように、原住民、移民双方に不都合のある取り組みは少なからず後に制度などを作る際、反省点として参考に使われたと思う。
Q13	家族に満蒙開拓団について話した	どのようなものを学んできたか。そして実際に何を話したのか。最終的にどのようなことになってしまったのか。	全て。日本が世界恐慌の影響を受けて不景気になったことで蚕を育てていた地方は経済的に打撃を受け、少年たちを多く満州国に送り出すことで、国からお金を受け取ったということ。ソ連侵攻を受けた満州国では女性子どもは収容所へ、男性はシベリア抑留へ。冬の満州は-30°Cで収容所には凍った死体が山積みになっていたこと。これを見て同情し、子どもを預かった中国人もいたということ	母親に満州の人々が派遣された分布図の話をしました	家族と少し話をしました。満州からシベリアに行った人もいたということ。	例えば、戦争体験などは実際に体験していない人が他人に伝えるとなると少なからず脚色が入ってしまうと思うので、大まかな内容だけ伝え、現地をおとずれることをすすめた。